

## 諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 21 年 8 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火が断続的に発生しました。27日22時00分頃には、噴火に伴う振幅の大きな火山性微動が発生しました。28日に京都大学及び気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て合同で行った上空からの観測では、御岳火口の北西側に多量の火山灰が積もっているのを確認しました。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

平成19年12月1日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 8月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図2、図4）

御岳火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火は25回（7月：7回）でした。28日に京都大学及び気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て合同で行った上空からの観測では、御岳火口の北西側に多量の火山灰が積もっているのを確認しましたが、火口から1kmを超えて飛散した大きな噴石は認められず、火口の形状にも変化はありませんでした。諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しています。噴煙の最高高度<sup>2)</sup>は29日の火口縁上1,400m（7月：800m）でした。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、27日に島内の集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。

#### ・地震や微動の発生状況（図2、図3）

27日22時00分頃には、噴火に伴う振幅の大きな火山性微動が発生しました。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

火山性地震の月回数は、A型地震が35回（7月：40回）でした。B型地震は747回（7月：345回）と増加しました。

火山性微動の月回数は、271回（7月：387回）、継続時間月合計は、182時間8分（7月：313時間33分）で、前月と比べてやや減少しました。

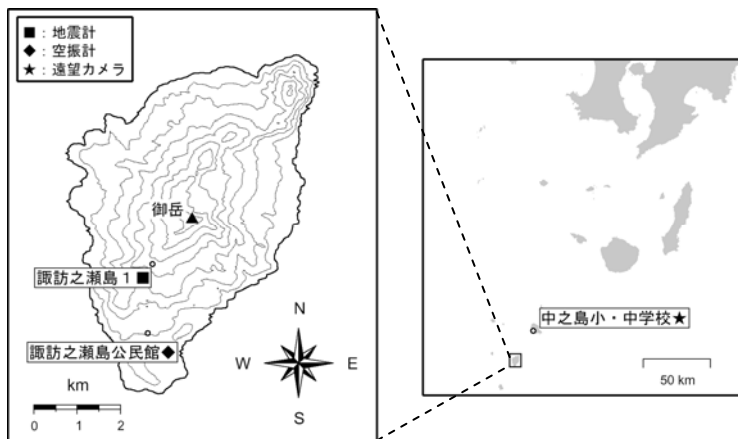


図1 諏訪之瀬島 観測点配置図

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 2003年3月28日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成21年9月分）は平成21年10月7日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。

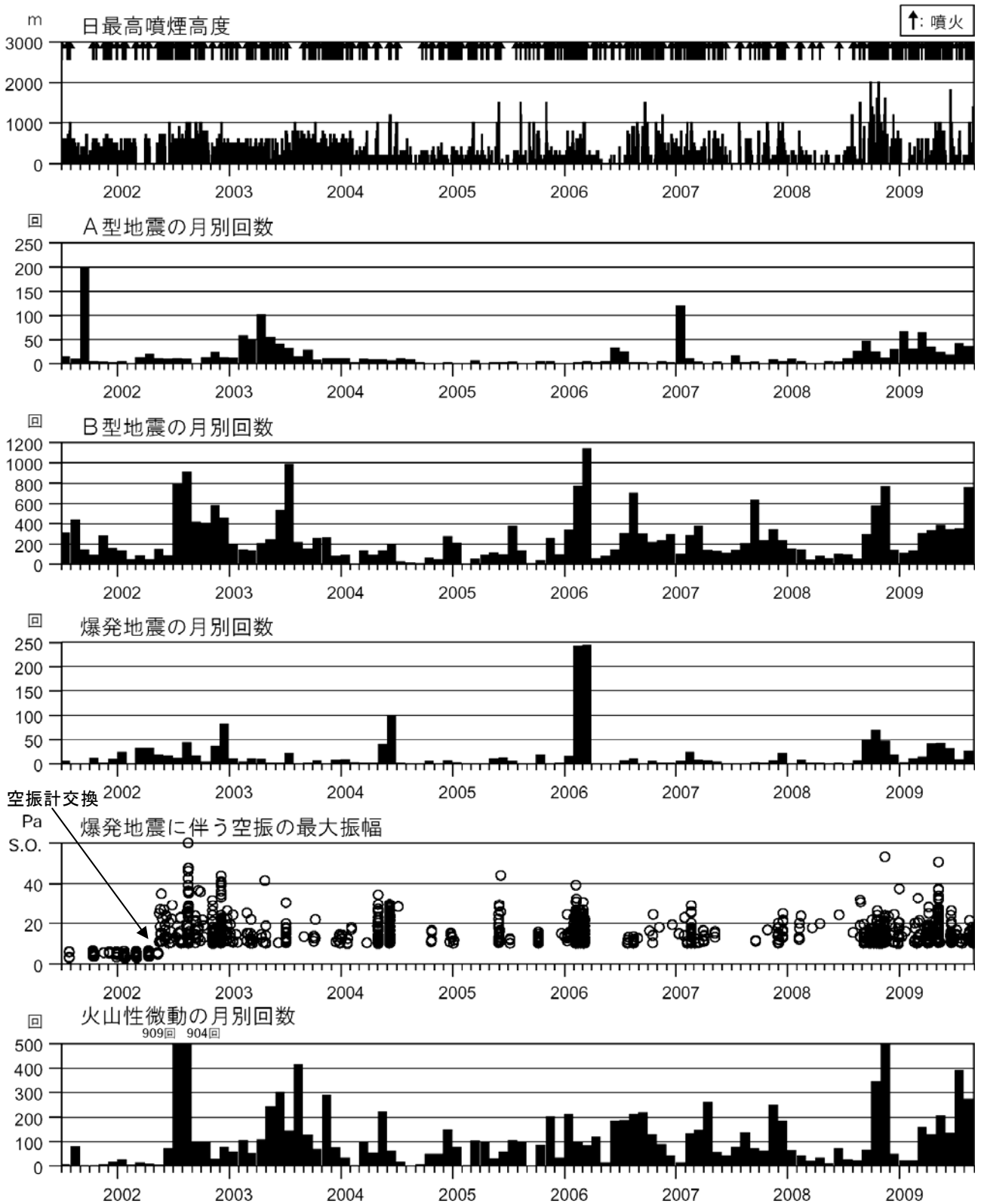


図 2 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2001 年 7 月～2009 年 8 月）

- ・長期にわたり噴火を繰り返しています。
- ・火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

< 8 月の活動状況 >

- ・爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生しました。
- ・27 日 22 時 00 分頃には、噴火に伴う振幅の大きな火山性微動が発生しました。

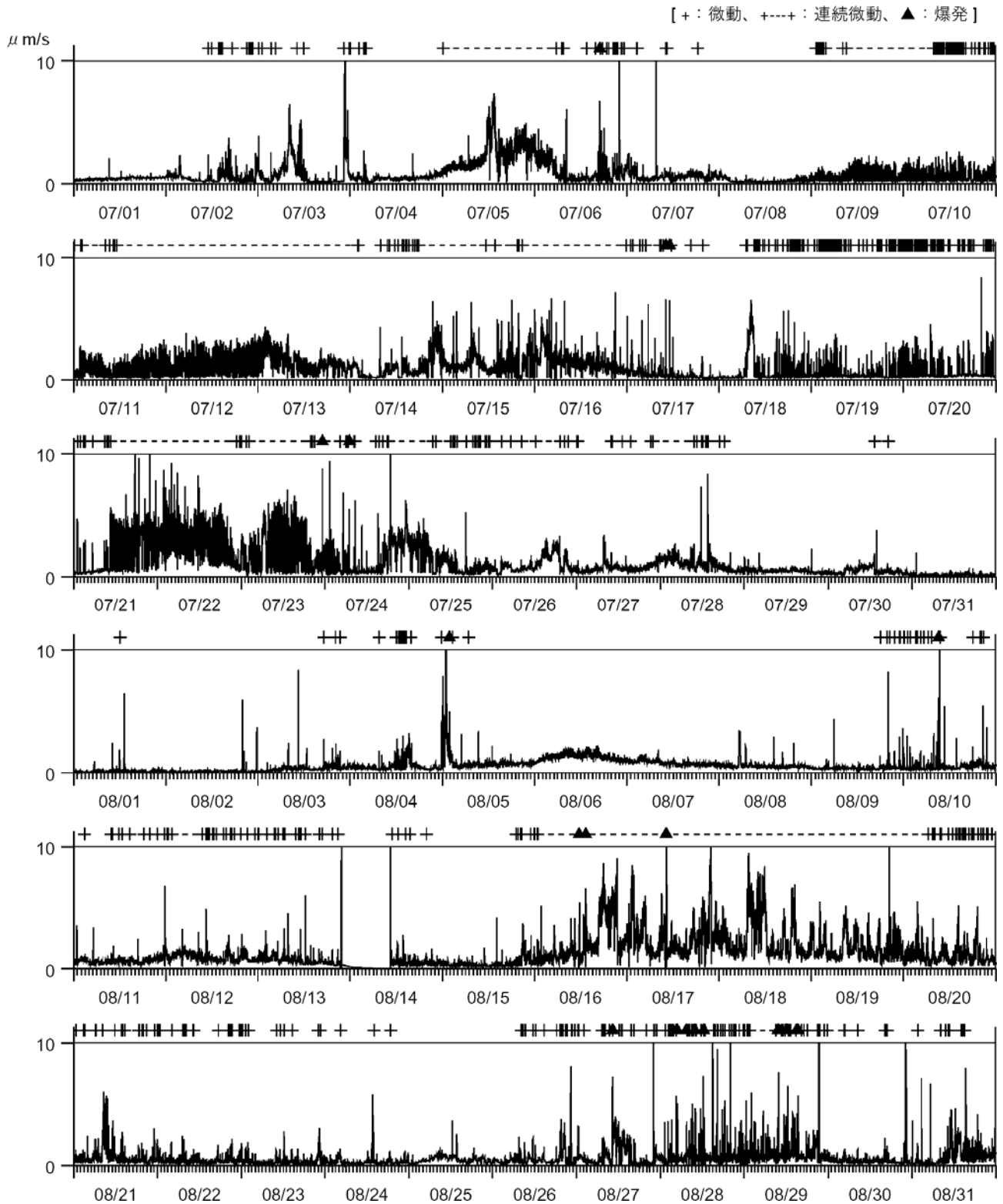


図3 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化（SWA1 上下成分）（2009年7月～2009年8月）  
 < 8月の活動状況 >

火山性微動の月回数は271回で、継続時間月合計は182時間8分でした。



図 4 諏訪之瀬島 上空から撮影した御岳北西部の状況

28 日に京都大学及び気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て合同で行った上空からの観測では、御岳火口の北西側に多量の火山灰が積もっているのを確認しましたが、火口から 1 km を超えて飛散した大きな噴石は認められず、火口の形状にも変化はありませんでした。